

KSGP17050

丸山 航

Wataru Maruyama

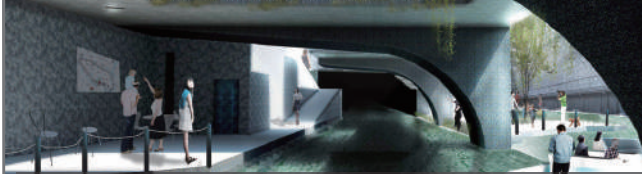


東京理科大学大学院
工学研究科
建築学専攻

「対渠の峡」 [東京都 水道橋・お茶の水・秋葉原]

共同提案者

笠原優一 Yuichi Kasahara 東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻



都市の遺構となってしまう分水路、水との距離が遠くなった神田川。暗渠と開渠、人口と自然、明と暗、対なる渠の境界に着目し、神田川の水との営みを顕在化させていくモニュメントとしての峡を三つの分水路口に再編する。かつての水系を発露させる峡はクルーズ船の船着き場や神田川の新たな風景となり、隅田川、日本橋川を含めた東京の水辺を回しだす拠点となる。

KSGP17056

岡本 大樹

Daiki Okamoto



大阪工業大学大学院
工学研究科
建築・都市デザイン工学専攻

「土は還りやがて煙る」 [愛知県瀬戸市沖洞町研修施設空き家改修]

陶土によってまちが形成された愛知県瀬戸市。土が循環していた頃のまちを歴史的空間と捉え、土が大地へと還りながら瀬戸のまちを作ってきた土の循環を土がまちの一部を補強しながら大地へ還っていく土の循環へと再編します。新しい陶都の景観として再び大地へ循環しながら再更新する方法を考えます。



KSGP17064

山崎 洸希

Koki Yamazaki



金沢工業大学大学院
工学研究科
建築学専攻

「蘇る小さな舟」

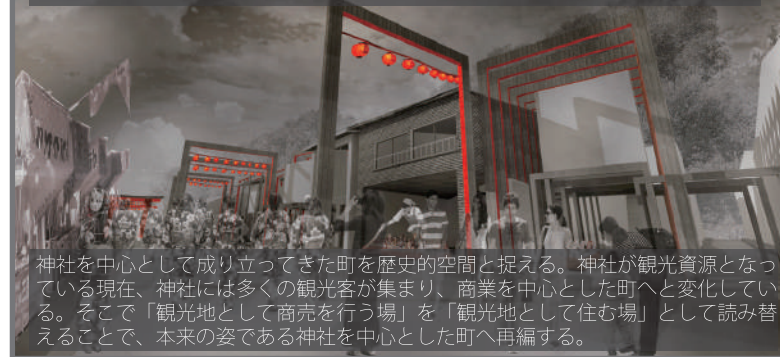
[京都府与謝野郡伊根町]



小舟は伊根町の歴史的資源である。現代、漁の合理化、舟の大型化により、小舟は舟屋にしまわれたままである。漁獲量を求めるだけの漁業ではなく、小舟を用いた新たな価値をもった漁業の在り方を提案し、小舟の価値を再編する。

「鳥居が紡ぐ稲荷の町—神社を中心に成り立ってきた町の再編—」

[京都府京都市伏見区伏見稲荷地域]



神社を中心に成り立ってきた町を歴史的空間と捉える。神社が観光資源となっている現在、神社には多くの観光客が集まり、商業を中心とした町へと変化している。そこで「観光地として商売を行う場」を「観光地として住む場」として読み替えることで、本来の姿である神社を中心とした町へ再編する。

KSGP17075

山本 博史

Hiroshi Yamamoto



大阪工業大学大学院
工学研究科
建築・都市デザイン工学専攻

「『っぼさ』の再編集」 [埼玉県川越市]

生活空間が観光地化に侵食され、大衆向けに整備された町並みが「テーマパーク的」と揶揄される現在、地域の価値はどこに見るのか。それは日々のささやかな振る舞いの中にある風景の中に見いだすものではないか。観光地化によって「っぼさ」という虚構の地縁を纏った川越の町並みの本質を再考する。



KSGP17082

市ノ川 貴之

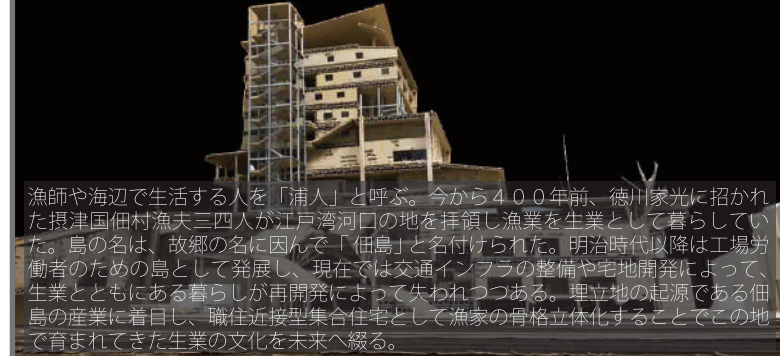
Takayuki Ichinokawa



日本大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

「浦人ノ舟屋 佃島を母体とした職住一体型集合住宅」

[東京都中央区佃島]

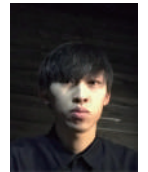


漁師と海辺で生活する人を「浦人」と呼ぶ。今から400年前、徳川家光に招かれた摂津国佃村漁夫三四人が江戸湾河口の地を拝領し漁業を生業として暮らしていた。島の名は、故郷の名に因んで「佃島」と名付けられた。明治時代以降は工場労働者のための島として発展し、現在では交通インフラの整備や宅地開発によって、生業とともに暮らしが再開発によって失われつつある。埋立地の起源である佃島の産業に着目し、職住近接型集合住宅として漁家の骨格立体化することでこの地で育まれてきた生業の文化を未来へ綴る。

KSGP17083

横山 大貴

Daiki Yokoyama



日本大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

KSGP17084

伊藤 暁
Akira Ito



大阪工業大学
工学部
建築学科

共同提案者

山本博史 Hiroshi Yamamoto
足立和人 Kazuhito Adachi
廣田貴之 Takayuki Hirota
高橋ゆか Yuka Takahashi
木下明音 Akane Kinoshita
宮本茉侖 Mayu Miyamoto

大阪工業大学大学院工学研究科建築・都市デザイン工学専攻
大阪工業大学大学院工学研究科建築・都市デザイン工学専攻
大阪工業大学大学院工学研究科建築・都市デザイン工学専攻
大阪工業大学工学部建築学科
大阪工業大学工学部建築学科
大阪工業大学工学部建築学科



「湯の叙景」
[兵庫県美方郡新温泉町]

「湯」と生活が共に成り立ってきた町の空間を歴史的空間と捉える。この地域では「湯」が住民の生活を支えてきた。「湯」は、動き、透明さ、熱を持つ。つまり、壁や床、柱、梁といった建築の構成要素を揺るがす存在としての力があると考え、「不安定なもの」として「湯」を地域の素材として捉える。

KSGP17086

加藤 恭輔
Kyosuke Kato



東京理科大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

「HASHIMA CIVIC GROUND

羽島市役所新庁舎建設計画に伴う、既存庁舎とランドスケープの活用」

[岐阜県羽島市竹鼻町羽島市庁舎]

共同提案者

永井弦輝 Genki Nagai 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻
國分元太 Genta Kokubu 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻
柴田浩志 Hiroshi Shibata 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻



現在同じ敷地内で新市庁舎への建て替え計画が提案されている羽島市庁舎の活用計画を行った。かつて、坂倉準三が行った羽島市計画で示された市庁舎の文化拠点としての役割を再解釈し、コミュニティー・ランドスケープ・建築の境界面をデザインすることで新たな羽島市の文化拠点を提案する。

KSGP17089

山内 裕斗
Yuto Yamauchi



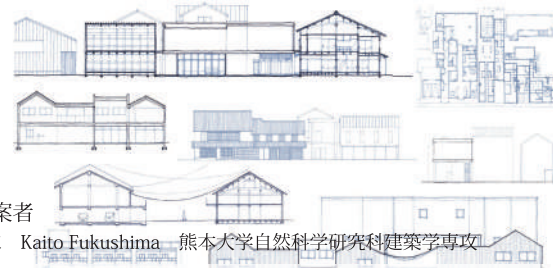
千葉大学大学院
工学研究院

「深翠色の手継ぎ」 [東京都新島]

東京都新島を舞台に、廃れゆくコーガ石の風景を再興することを試みる。そこで、同一物質である新島ガラス産業と相乗効果的にコーガ石産業を復興すること、さらに、日本の継手仕口に習った新しい組積造を考えた。ブロック同士が噛み合うことで地震力に耐えうる組積造【石とガラスの継手】の提案である。



「都市文脈を決める設計試行」[熊本県熊本市古町]



共同提案者

福嶋海仁 Kaito Fukushima 熊本大学自然科学研究科建築学専攻

本提案は、2016年4月の熊本地震により、町家の倒壊や新しく建てられる建物によって歴史ある町の特徴が薄れることが予想される古町に、これから建つ建物に対する都市文脈を生かしたデザインコードをつくりながら、将来に“残すべきもの”と“新しく生むもの”をデザインするための都市文脈を模索する。

KSGP17092

河口 ひかり
Hikari Kawaguchi



熊本大学大学院
自然科学研究科
建築学専攻

「再考されるレガシー

伝統的建造物群保存地区における伝統継承のあり方の提示」[群馬県桐生市]



本提案では、伝統的建造物群保存地区に住む人の意識の調査を行い考察するとともに、地域が継承する形式を現代の環境から紐解くことで、過去の価値を保存するだけでなく、未来の価値を許容するような建築や都市の関係性を再考する。

KSGP17104

久保田 祐基
Yuki Kubota



前橋工科大学大学院
建築学専攻

「Document-ary Building -時の痕跡を重ねる惣構-」

[石川県金沢市外惣構跡]

1611年建設-2017現在。その時代の社会や環境に合わせて姿を変える惣構跡。そこには今、近代的で短命な命で建つ建物が線状敷地を覆っています。しかし、遺産ではないこの街並み 400年前のエネルギーは今も流れていました。建築がこの場所に流れる時間へ接続し、歴史を続かせていきます。



KSGP17114

伊達 卓也
Takuya Date



金沢工業大学大学院
工学研究科
建築学専攻